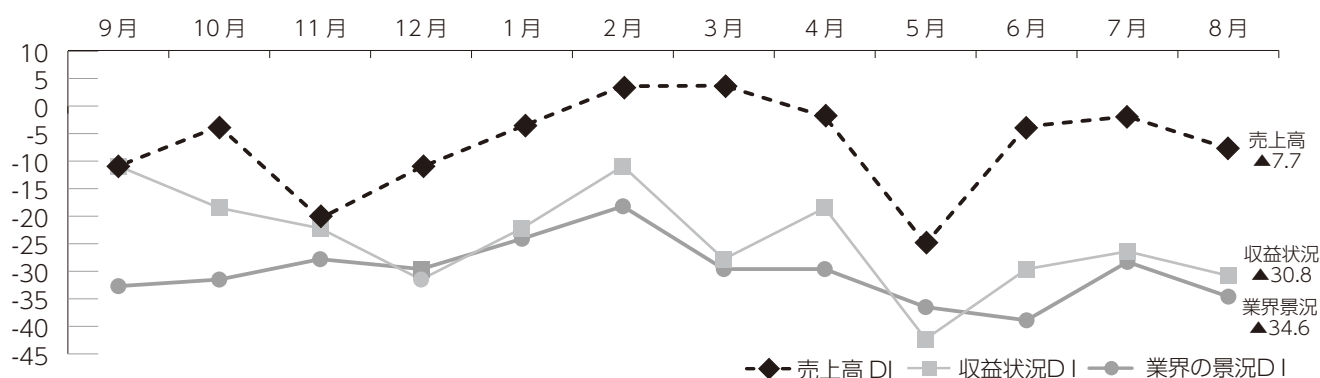


コスト高が継続、需要低迷や天候不順の影響も

概況

多くの業種で価格転嫁が進む様子がうかがえるが、原材料費や燃料費、物流費の継続的な上昇が経営の重荷となっている。製造業では、中東情勢を背景としたコスト増や需要の低迷等により、先行きへの不安の声が聞かれる。非製造業では、商店街で天候不順による客足の鈍化がみられるほか、不動産業で建築費の高騰を背景に投資を抑制する動きや、建設業で資材の高騰により大規模・長期の受注に対する警戒感もみられる。

主要DIの推移（全体）



景況天気図（前年同月比）

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
全業種平均									
製造業	食料品								
	繊維製品								
	窯業・土石								
	機械・金属								
	その他								
非製造業	卸売業						—		
	小売業						—		
	商店街						—		
	サービス業		—				—		
	建設業		—				—		
	運輸業		—				—		

減少悪化 ← → 増加好転

天気図は、各景況項目について調査月と前年同月を比較して、DI値を基に判断したものです。
DI値 = (増加・好転) - (減少・悪化) ÷ 回答数

コメント掲示板

《製造業》

食 料 品	【パン】 包装資材や物流費、天候不順に伴う原材料費の高騰が製造コストを押し上げている。 【菓子】 お盆前までは客足が伸び悩んでいたが、お盆以降は人流が戻り、前年並みの状況。 【製麺】 7月中旬以降に天候が回復したことに伴って素麺の需要は持ち直したものの、茹で麺や生麺の荷動きは鈍く、例年をやや下回る水準にとどまった。
繊維製品	【織物（伊勢崎）】 小幅織物は人手不足により厳しい経営環境が続く。一方で、広幅織物は堅調な売上を維持しており、新商品開発等へ積極的に取り組んでいる。 【刺繍】 年間を通じて今月が閑散期であることに加えて、各種コスト高・人手不足等の要因が重なり苦しい状況となった。今後は、秋冬需要に備えた準備をする予定。 【インテリア】 この夏の遮熱カーテンの需要は昨年と比較するとやや落ち込み気味。
窯業・土石	【コンクリートブロック】 骨材や備品、資材等の相次ぐ値上げが利益を圧迫している。また、新築住宅着工棟数が前年比で減少しており、売上への影響を危惧している。 【碎石】 吾妻地域では上信道工事で事業量があるものの、その他の地域では全体的に低調に推移。下期の発注に期待している。
機械・金属	【めっき】 中東情勢の影響から、溶剤、シンナー、薬品類の高値が続いている。 【機械金属（高崎市）】 営業力強化や価格転嫁が進み、半導体関連や建設機械関連、宇宙関連を手掛けている組合員の売上・収益は増加傾向。一方で、自動車部品関連は低調な状況。 【機械金属（富岡市）】 燃料・原材料費の高騰や物価高が経営を圧迫している。現在の中東情勢が継続し、原材料不足になった場合の経営への更なる影響を懸念している。
そ の 他	【家具】 市況は低調のまま。価格転嫁は進んでいるが、物価高から消費者が低価格志向になっており、市況が回復するまでには、しばらく時間がかかると見込んでいる。 【紙製品】 夏季休暇等で取引先の営業日数が少なかったものの、仕事の引き合いは多かった。諸物価や物流費、原材料の高騰を受けて、価格転嫁を進めている。 【ゴム製品】 原材料価格は高騰し続けているため、製品への価格転嫁を進めている。

《非製造業》

卸 売 業	【建築資材卸売】 物価高の影響から、取引先である小売店の経営状況が悪化しており、それに伴い売上は減少傾向。同業他社の倒産も聞こえており、厳しい経営環境が続く。 【再生資源】 鉄スクラップの買取価格は、底値感がある一方、非鉄は高値を維持。古紙は発生量の減少により価格低迷が続いており、回復に向けた好材料にも欠ける。
小 売 業	【中古自動車オークション】 出品・成約・手数料収入は前年をやや下回る状況。災害発生時に対象地域への車両支援を行う仕組みの構築に向けて、関係機関と協議を行う予定。 【石油】 中東情勢が解決を見せず、不安定な状況が続く。国の補助金で資金繰りは安定しているが、冬場の需要増に向けて、11月以降も補助金が継続することに期待。
商 店 街	【前橋市】 再開発の計画遅延や地元百貨店閉店に伴い、来街者が明らかに減少した。これに伴い各店舗の売上にも影響が出始めており、危機感が高まっている。 【藤岡市】 昨年のような猛暑日はなかったが特に中旬以降は天候不順が続き客足も鈍かった。
サービス業	【四万温泉】 原材料や燃料等が値上がりし、宿泊単価を多少上げても利益が少ない。 【美容】 価格転嫁を進めているものの、原材料の値上がりが続いているため、収益が好転している実感はない。さらなる価格転嫁に向け、店舗空間の充実や新メニュー、サービスの拡充など、付加価値の向上に取り組む動きもみられる。 【不動産取引】 高崎地域にて、マンション用地として土地を仕入れたものの、建築費の高騰から建築を見合わせているところがある様子。
建 設 業	【建設】 熱中症対策に伴う費用増加や労働時間の減少が生じる中、民間工事では増額契約や工期変更の理解が得られず、負担が増している。地方では人口減少の影響もあり、民間工事の建設需要は低調で、公共工事も事業量が減少しており、厳しい経営環境が続いている。 【電気工事】 機器類や電線等の材料単価が高騰傾向にあり、厳しい状況が続いている。こうした状況のため、民間における大規模・長期の受注に対する警戒感もみられる。 【鉄骨工事】 資材高により1件あたりの工事予定額は増加基調にあるなか、中小鉄骨製造事業者は建設コストの高騰や人手不足に加えて、委託事業者からの指値発注を受けるなど、厳しい経営環境が続いている。
運 輸 業	【一般貨物運送】 エンジンオイルやギヤオイル等の潤滑油は一部で受注制限がかかっているが、1週間程度で納品される状況に改善。 【貨物軽自動車運送】 P E T 配送が増加した一方で、スポット配送は減少。スポット配送の依頼が年々減少傾向にあり、今後は懸念している。

※本調査は、情報連絡員56人の報告を取りまとめ、その概要を示したものです。